

内 科 第 2

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 臨床医として持つべき基本的な姿勢、態度および患者とのコミュニケーションの習得
- 2) 内科学全般にわたる医学知識の取得
- 3) 患者の総合的所見からの病態解析と治療、予防に至る思考過程の習得

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度～12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	5人	5人	3人	9人
研修期間	18ヶ月	18ヶ月	18ヶ月	18ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：2人、研修した他科名：第二外科、小児科

平成12年度：2人、研修した他科名：第一外科、第二外科

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度～12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	6人	7人	6人	7人

(3) 指導体制について

研修医の指導は、院内および連携病院において、内科学会およびその他の学会の専門医、指導医が主に行っている。

(4) 研修の評価について

毎週実施される第二内科全体の症例検討会で、受持ち症例の報告をさせ、指導・評価している。また、各診療グループごとに毎週行われる症例カンファレンスにおいて、きめ細かな指導・評価を行っている。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 大分市医師会立アルメイダ病院
- 2) 大分県立病院
- 3) 大分県立三重病院

(6) 臨床教授

佐分利能生（大分県立病院がんセンター血液内科部長）

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況（平成9年度～12年度）

- 1) 日本内科学会／認定医22名、専門医2名

- 2) 日本呼吸器学会／専門医4名
 - 3) 日本気管支学会／認定医1名、指導医2名
 - 4) 日本感染症学会／認定医6名、ICD (Infection Control Doctor) 10名
 - 5) 日本消化器病学会／認定医15名
 - 6) 日本消化器内視鏡学会／認定医6名、指導医1名
 - 7) 日本循環器学会／専門医7名
 - 8) 日本血液学会／認定医2名、指導医3名
 - 9) 日本輸血学会／認定医1名
 - 10) 日本臨床薬理学会／認定医1名
 - 11) 日本リウマチ学会／認定医1名、登録医1名
 - 12) 日本化学療法学会 抗菌薬臨床試験指導者4名
- (8) 学会認定施設の状況

- 1) 日本内科学会認定医制度教育病院
- 2) 日本呼吸器学会認定施設
- 3) 日本気管支学会気管支鏡認定施設
- 4) 日本腎臓学会認定研修施設
- 5) 日本透析医学会認定施設
- 6) 日本血液学会認定施設
- 7) 日本消化器内視鏡学会認定施設

※今後の課題と改善策

- ・日本内科学会の認定内科医証を取得することが他の関連学会の専門医取得の必要条件であるため、全員の認定内科医の取得を目標とする。他の関連学会の認定専門医を可及的に取得する。研修のローテーションを促進するよう努める。

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

- 1) 内科領域での臨床病態、病因、治療法に関する研究
 - a. 感染症の病態、迅速病因診断法と適正な治療法
 - b. ヘリコバクター・ピロリ感染症
 - c. 細菌のスーパー抗原による成人T細胞白血病発症
 - d. 感染症と冠動脈疾患
 - e. 腎疾患と凝固線溶異常

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師 2名、助手 6名
実験助手（非常勤職員を含む） 5名
事務職員（非常勤職員を含む） 2名

(3) 研究領域と研究課題（対象期間：平成9年度－12年度）

主な研究課題名

- 1) ヘリコバクター・ピロリ感染と胃癌との関連（科研費）
- 2) 侵襲性肺アスペルギルス症の早期の分子生物学的迅速診断法に関する研究（科研費）
- 3) 緑膿菌性気道感染症に対する線毛蛋白および抗体の経気道的投与による感染制御効果（科研費）

(4) 博士(医学)の学位の取得状況(平成9年度-12年度)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	2名	3名	5名	2名

(5) 学会、研究会活動(シンポジウム、特別講演、学会役職等)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	8回	13回	9回	10回
(国内)	27回	31回	31回	28回
(地方)	33回	21回	26回	30回
(司会・座長)	15回	17回	18回	18回
シンポジウム特別講演等				
(国際)	5回	1回	1回	0回
(国内)	4回	9回	9回	7回
(地方)	5回	6回	5回	5回
(司会・座長)	2回	1回	2回	2回

学会役職(評議員、理事等)(平成9年度-12年度)	
日本内科学会	那須 勝(評議員)
日本呼吸器学会	那須 勝、門田淳一、 永井寛之(評議員)
日本感染症学会	那須 勝(評議員・理事) 門田淳一、永井寛之、 平松和史(評議員)
日本化学療法学会	那須 勝(評議員・理事) 門田淳一、永井寛之(評議員)
日本結核病学会	那須 勝(評議員・理事) 門田淳一(評議員)
日本環境感染学会	那須 勝(評議員・理事)
日本臨床微生物学会	那須 勝(評議員・理事) 平松和史、山上由理子(評議員)
日本気管支学会	那須 勝、門田淳一(評議員)
日本肺癌学会	那須 勝、永井寛之(評議員)
日本臨床検査医学会	那須 勝(評議員)
日本性感染症学会	那須 勝(評議員)
日本熱帯医学会	那須 勝(評議員)
日本ヘリコバクター学会	那須 勝(評議員・理事) 村上和成(評議員)
日本サルコイドーシス学会	門田淳一(評議員)
日本腎臓学会	柴田哲雄(評議員)

日本消化器病学会	村上和成 (評議員)
日本消化器内視鏡学会	村上和成 (評議員)
日本嫌気性菌感染症研究会	那須 勝 (運営委員)
緑膿菌感染症研究会	那須 勝 (運営委員)
Bacterial Adherence研究会	那須 勝 (運営委員)
日本呼吸器学会九州地方会	那須 勝、門田淳一 (理事)
日本感染症学会西日本地方会	那須 勝 (理事)、門田淳一 (評議員)
日本化学療法学会西日本支部会	那須 勝 (理事)、門田淳一 (評議員)
日本結核病学会九州地方会	那須 勝、門田淳一 (理事)

(6) 研究論文 (英文、和文) (平成9年度-12年度代表論文10編)

- 1) Honda S, Fujioka T, Tokieda M, Satoh R, Nishizono A, Nasu M: Development of *Helicobacter pylori*-induced gastric carcinoma in Mongolian Gerbils, *Cancer Research*, 58, 42 55-4259, 1998
- 2) Mizoguchi H, Fujioka T, Kishi K, Nishizono A, Kodama R, Nasu M: Diversity in protein synthesis and viability of *Helicobacter pylori* coccoid forms in response to various stimuli, *Infection and Immunity*, 66 : 5555-5560, 1998
- 3) Yamakami Y, Hashimoto A, Yamagata E, Kamberi P, Karashima R, Nasu M: Evaluation of PCR for detection of DNA specific for *Aspergillus* species in sera of patients with various forms of pulmonary aspergillosis, *Journal of Clinical Microbiology* 36 : 3619-3623, 1998
- 4) Nagase K, Tamura A, Mikuriya Y, Nasu M: Significance Q-wave regression after anterior wall acute myocardial infarction, *European Heart Journal*, 19 : 742-746, 1998
- 5) Ogata M, Kikuchi H, Ohtsuka E, Kohno K, Ito M, Nasu M: Stimulation of leukemic cells from adult T-cell leukemia patients with bacterial superantigens, *British Journal of Haematology*, 100 : 490-500, 1998
- 6) Goto T, Nishizono A, Fujioka T, Ikewaki J, Mifune K, Nasu M: Local secretory immunoglobulin A and postimmunization gastritis correlate with protection against *Helicobacter pylori* infection after oral vaccination of mice, *Infection and Immunity*, 67 : 2531-2539, 1999
- 7) Nagai H, Yamakami Y, Hashimoto A, Tokimatsu I, Nasu M: PCR detection of DNA specific for *Trichosporon* species in serum of patients with disseminated Trichosporonosis, *Journal of Clinical Microbiology* 37 : 694-699, 1999
- 8) Kishi K, Hirai K, Hiramatsu K, Yamasaki T, Nasu M: Clindamycin suppresses endotoxin released by Ceftazidime-treated *Escherichia coli* 055 : B 5 and subsequent production of tumor necrosis factor alpha and interleukin-1 β , *Antimicrobial Agents and Chemotherapy*, 43 : 616-622, 1999
- 9) Tokieda M, Honda S, Fujioka T, Nasu M: Effect of *Helicobacter pylori* infection on the *N*-methyl-*N'*-nitro-*N*-nitrosoguanidine-induced gastric carcinogenesis in Mongolian gerbils, *Carcinogenesis*, 20 : 1261-1266, 1999
- 10) Yamagata E, Kamberi P, Yamakami Y, Hashimoto A, Nasu M: Experimental model of

progressive disseminated trichosporonosis in mice with latent trichosporonemia, Journal of Clinical Microbiology, 38 : 3260-3266, 2000

(7) 高度先進医療開発研究の現状

成人T細胞白血病に対する同種移植療法

(骨髄非破壊的移植を含む)

※今後の課題と改善策

- ・研究論文は国際誌への発表が増えてきているが、今後もインパクト・ファクターの高い雑誌への投稿を目標とする。
- ・高度先進医療開発にも積極的に関与して行く。

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

- 1) 肺・気道を中心とした呼吸器感染症、日和見感染症、深在性真菌感染症などの病態解析と治療。
- 2) ヘリコバクター・ピロリ感染症、消化管、肝・胆・膵疾患の診断と治療。
- 3) 血液疾患の診断と治療、骨髄移植療法。
- 4) 虚血性心疾患、腎炎・ネフローゼ症候群の診断と治療。

(2) 診療実績 (平成9年度-12年度)

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	12,227人	11,977人	12,706人	11,625人
初 診 患 者 数	868人	789人	817人	681人
紹 介 患 者 数	319人	378人	306人	273人
入 院 患 者 数	16,352人	16,547人	16,708人	16,097人
平均在院日数	39.0日	36.0日	38.3日	33.9日
平均病床稼働率	89.6%	91.4%	93.2%	91.6%
死 亡 退 院 率	7.0%	4.5%	6.7%	5.4%
剖 検 率	27.6%	20.0%	27.6%	28.0%

(3) 特殊検査・手術症例等

- 1) PCR法を用いた深在性真菌症、ウイルス感染症の迅速診断 (平成11年度末まで)
- 2) 冠動脈疾患のローターブレーション療法
- 3) 骨髄移植療法
- 4) 消化管超音波内視鏡検査

(4) 特殊専門外来

- 1) エイズ拠点病院としての専門外来
- 2) 厚生労働省の施設内MRSA感染対策相談窓口

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

ヘリコバクター・ピロリの除菌による胃癌予防の検討

※今後の課題と改善策

- ・外来患者数の増加のために関連病院との連携を密にし、情報の交換に努める。高度先進医療の

開発に積極的に取り組み、先端医療の導入を図る。特定機能病院、教育病院としての機能の向上に努力して行く。

4. 国際交流について（平成9年度－12年度）

（1）国際医療協力体制

JICAの国際医療協力事業としてドミニカ共和国に医療技術援助を行っている。

（2）留学（長期外国出張）

- 1) NIH (National Institute of Health) (米国)、平成7年12月－平成10年7月、1名
- 2) カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校 (米国)、平成8年10月－平成9年9月、1名
- 3) 同 上 平成9年10月－平成10年10月、1名
- 4) フレッドハッチンソン癌研究所 (米国)、平成12年4月－平成13年3月、1名

（3）外国出張（国際学会活動など）

1) 平成9年

The '97 American Gastroenterological Association	2名	米国
The 20 th International Congress of Chemotherapy	1名	豪州
The 14 th Congress of the European Society of Cardiology	5名	スウェーデン
The 37 th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy	3名	カナダ
The University of Miami Clinical Exchange Program	1名	米国
The 25 th Congreso Panamericano de Enfermedades Digestivas	1名	ドミニカ共和国
The Agents for Change Symposium	1名	イタリア

2) 平成10年

The 18 th Annual Conference on Peritoneal Dialysis	1名	米国
'98 American Gastroenterological Association	6名	米国
The 12 th Asian Colloquium in Nephrology	1名	マレーシア
The 11 th International Workshop of Gastroduodenal Pathology and <i>Helicobacter pylori</i>	5名	ハンガリー
The 5 th Asian Pacific Society of Respiriology	3名	豪州
The 71 th Scientific Sessions of American Heart Association	3名	米国

3) 平成11年

'99 American Gastroenterological Association	5名	米国
The 11 th European <i>Helicobacter Pylori</i> Association	1名	フィンランド
The 36 th European Dialysis and Transplant Association	1名	スペイン
The 39 th International Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy	4名	米国
The 6 th Korean <i>H.pylori</i> Meeting	1名	韓国

4) 平成12年

The 11 th Asian Pacific Congress of Gastroenterology and		
The 8 th Asian Pacific Congress of Digestive Endoscopy	1名	中国
'00 American Gastroenterological Association	3名	米国

The 40th Interscience Conference on Antimicrobial Agents
and Chemotherapy

4名 カナダ

3rd International Congress on Coronary Artery Disease

3名 フランス

73rd Scientific Sessions of American Heart Association

2名 米国

World Congress on Lung Health and 10th ERS Annual Congress

4名 イタリア

The 9th International Congress on Infectious Disease

1名 アルゼンチン

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的	研 究			
受 入 人 数	1 名			
出 身 国 名	アルバニア			
滞 在 期 間	3年間			
費 用 負 担	自己負担			

※今後の課題と改善策

- ・年間数名の海外留学者を目標に支援体制を整備し強化する。
- ・国際学会への発表を増加するよう努力する。
- ・外国人研究者の受け入れにも積極的に関与して行く。

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度－12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
第3回日本ヘリコバクター研究会	H9年6月18日 ～19日	800名	口演、特別講演 シンポジウム	
第32回緑膿菌感染症研究会	H10年2月6日 ～7日	150名	口演、特別講演 招請講演	
第57回九州癌学会・第38回日本肺癌学会九州地方会合同学会	H10年7月30日 ～31日	150名	口演、特別講演	
第243回日本内科学会九州地方会 (第98回九州医師会医学会第1分科会)	H10年11月21日	150名	口 演	
第18回日本内科学会九州支部 生涯教育講演会	H10年11月22日	200名	教育講演	
第29回日本嫌気性菌感染症研究会	H11年3月6日	130名	口演、特別講演	
第57回九州肺機能談話会	H11年4月17日	80名	口演、特別講演 シンポジウム	
第15回日本環境感染学会総会	H12年2月18日 ～19日	1300名	口演、特別講演 招請講演 シンポジウム	
第7回九州HDF検討会	H12年4月9日	500名	口演、 シンポジウム	

※今後の課題と改善策

- ・ 今後は国際的な学会・研究会の開催も視野に入れて努力して行く。

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研修会等の名称	開催頻度	参加人員	発表形式	日本医師会適合学術集会
大分感染症研究会	年2回	100名	口演、特別講演	○
大分県呼吸器疾患研究会	年2回	100名	〃	○
臨床呼吸器フォーラム大分	年2回	40名	〃	—
大分県深在性真菌症研究会	年1回	50名	〃	○
大分ニューキノロン研究会	年1回	100名	〃	○
大分ヘリコバクター・ピロリ研究会	年1回	100名	〃	○
大分Helicobacter pylori診断と治療フォーラム	年1回	100名	〃	○
D I C 研究会 ー大分ー	年1回	80名	〃	○
大分肺病懇話会	年4回	50名	口 演	—
大分消化器病懇話会	年12回	60名	カンファレンス形式	○
大分膵胆道疾患研究会	年3回	60名	〃	○
大分 GUT SCIENCE	年1回	100名	口演、特別講演	○
大分消化器疾患研究会	年3回	50名	カンファレンス形式	○
大分 I B D 研究会	年2回	100名	〃	○

※今後の課題と改善策

- ・ 地域と密着した研究会の主催も増加してきているが、息の長い研究会となるように、また参加人員を増加すべく、引き続き研究交流、啓蒙活動を行っていく。

7. 診療科の特色

呼吸器・感染症、消化器、血液、循環器、腎の5つの診療グループがあり、それぞれ連携して診療や臨床研究に当たっている。また、医の心あるより良き医療人・内科医を育成すべく、それぞれのスタッフが日夜努力している

8. 将来展望

先進医療を取り入れた地域の医療ニーズに応えることが出来る医療が行われ、かつ、優れた臨床医、患者の立場に立った医療が行える人材を育成することが使命である。また優れた斬新な臨床研究が遂行できる環境整備と研究の進展を図る。